



岡本 重明

みんなの党愛知

海上を渡る国道を利用した観光振興施策上の認識は

観光産業を支える必要不可欠な国道と認識している



まちづくりについて

問 市街地と急激に人口減少が進む表浜地域とでは、日常生活を送る上での市民意識が違うとの声が届いている。この意識の違いを市はどのように捉えているのか。

答 令和元年度の市民意識調査では、本市が優れている、本市に欠けている、と感じることについて、市街地と表浜地域の一部を含む集落部の地域では、回答の傾向が異なっている。これは、それぞれの地域特性の差異と捉えている。

問 国道42号と259号は伊良湖岬鳥羽間の海上区間で結ぶ全国でも珍しい海上を渡る国道である。国道42号は浜松などのインターチェンジからのアクセスが良く、国道259号は幹線バスのルートである。両国道を利用して伊勢神宮、大和奈良、東大寺、熊野古道などを訪れる観光客を増やすことが人口減少の進む本市西部地域の産業振興につながると考えるが、本市の認識は。

答 海上を渡る国道は関東圏や関西圏から観光客を運ぶ重要な道路であり、東三河地域と伊勢志摩地域の観光を支える必要不可欠な国道であると認識し

ている。そのため、東三河と伊勢志摩地域との広域的な連携を促進し、観光ルートの形成や情報発信力の強化を図り、本市の観光振興につなげていくことが必要だと考えている。

問 豊橋駅からスタートする幹線バスは、豊橋市内18カ所のバス停を經由し、ようやく田原駅に到着する。豊橋駅から伊良湖岬までは1~2回乗り継ぎが必要となっている。そこで新幹線が停まる豊橋駅から伊良湖岬までの幹線バスに乗る観光客の利便性について、本市はどのように認識しているのか。

答 幹線バスで豊橋駅から伊良湖岬まで移動するためには、主要な駅からスムーズに目的地まで移動できるように、使い勝手や利便性を高める取り組みが必要であると考えている。



地方議会活性化シンポジウムで田原市議会と図書館の連携について紹介されました

総務省主催の「地方議会活性化シンポジウム2021」が、11月19日（金）にオンライン開催され、「令和時代を担う地方議会～調査研究・政策立案機能の充実に向けて～」と題し、各地の議会関係者や大学

教授などによるパネルディスカッションが行われました。本市からは、田原市図書館の是住久美子館長が出席し、レファレンス（調査の援助）や資料・図書の特集展示、議会活動等のPR展示など、市議会との連携の実践例について発表していただきました。

田原市議会は、今後も田原市図書館と連携しながら、議会・議員活動に努めます。

